

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0771100187		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム 今泉		
所在地	田村市船引町今泉字台の前11-2 (電話) 0247-82-3819		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年5月27日	評価確定日	平成20年7月7日

【情報提供票より】 (平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤15人, 非常勤	人, 常勤換算14.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	11,100 円	その他の経費(月額)	9,000～冬季12,000 円
敷金	有 (円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 77 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大方病院・博多歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

道路に面しているが、裏は見晴らしが良く畑が広がっている。職員は、利用者を介護するのではなく、家族として共に生活するということを前提として、利用者家族とのコミュニケーションも大切にしながら生活している。散歩等の際に近隣の方々と挨拶を交わしていくうちに今では多くの顔見知りができてきた。そのため、野菜の差し入れ等を頂いたり、それに対して、おはぎ等の行事食をお返しするなどの地域との交流を大切にしている。また、季節の草花を活けたり絵を飾るなどして、利用者も職員も心が豊かになるような工夫も見られた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価での主な改善課題については、すぐに取り組み改善していた事は評価できる。改善のための話し合いを繰り返し行っていた。備蓄については予算をとり、整備されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価に対する取り組みについても、職員が全員で取り組んでいる。面接の際は各担当者が評価調査員の言葉に耳を傾けるという姿勢がみられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5)
	会議では、事業所から行事や事故報告等が細かく報告され、出席者の質問や意見なども活発に出されている。今後は、報告の際に使う専門用語(見当識障害)などに説明を加えれば、認知症や障害などに対する理解がさらに深まると思われる。会議の中で、地域包括支援センターから地域密着型サービスの情報提供をいただいたり、隣組への入会について区長に仲介をお願いし、入会することができ、有意義な会議になったと思われる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	利用者は長く入居しており、職員と家族も親しい関係となり、利用者、家族、職員が「みんな家族」の雰囲気で見守っている。そのため、家族は意見や要望・質問など話しやすい雰囲気となっており、運営推進会議でも相談や質問・要望などが気軽にできるようになっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の方々から、ボランティアの申込みが増えている。事業所は町内会に入会し、職員は清掃活動などに参加し、職員の顔を覚えてもらうように努めている。また、ホームの行事に招待し、来訪してもらうなどして連携を強化し、災害や火災のような緊急時に協力を得られるよう働きかけを行っている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らせるよう、法人の理念とは別に事業所独自の理念を作り、地域と事業所の関係強化を図る理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	引き継ぎ時やスタッフ会議において理念の唱和をし、理念の共有に努めている。利用者や家族・来訪者にも見えるところに理念を掲示し、日々実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流を重視し、町内会に入会している。また、運営推進会議を活用し、地域の行事等の情報を得て、市民文化祭や芸能祭に参加したり、ボランティアの受け入れなどをして交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を実施することにより、これまでの取り組みについての話し合いの機会が増え、改善点が明確となり、より具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の運営や事故などの報告を行い、事故防止に関して意見や助言がある。又、地域包括支援センターや区長から地域の行事等の情報が出され、交流に役立っているなどサービスの質の向上に活かしている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一回定期的にお便りで報告している。近況や行事の他に、病院の受診の記録や事業所独自の広報誌「今泉たより」を発行して、利用者の日常的な暮らしぶりや、個人の生活・身体状況を合わせて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望は、来訪時に積極的に出されていて、その都度対応している。外部者へ表せる機会として、運営推進会議の際、参加した家族の代表から意見を述べてもらっている。個人的なことに関しては時間を問わず常時対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、異動や離職による利用者へのダメージを理解しており、「今泉たより」にできるだけ早い段階から家族に報告したり、十分な時間を掛けて交代できるように努めている。また、その人数も必要最小限に抑えられるよう配慮し、必要に応じ、家族の協力も得られている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修で、段階を定めた研修計画がある。OJTチェック表などの利用により、資質・技術などの向上に努めている。また、外部の研修などについては希望があればいつでも受けることができるようになっており、その後研修報告を行い、働きながら共に学べるようになっていく。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この法人は複数の事業所があり、法人内の事業所交流で、職員が利用者となり利用者を体験する訪問研修を相互に行って、サービスの質の向上につなげている。同じ法人でも、方法や理念の違いなどがあり、研修後は体験談として発表し、経験を知識として共有化している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	この事業所は、介護するという考え方ではなく「家族として」共に支え合うという視点で利用者を支援している。昔食べたというジャガイモの団子などを作り、昔の話を聞いたり、季節の食べ物を作っては思い出話をし、相互に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日により異なる思いに対して、コミュニケーションを図り、希望や意向を話すことのできるような関係作りに努めているが、サービス計画書には変化が無く確認できない。	○	その時の状況や体調の変化などにより異なる思いの把握に努められていると思われるが、計画書にそれらのことが記載されていないのが残念である。今後は、計画を見直した際に把握した家族・本人の意向を記載して欲しい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケースカンファレンスが開催され、計画作成者を中心に職員が全員参加して積極的な意見の交換をしている。又、その時々状態により通院介助の際、医師や看護師からの助言を求めたりして、多角的視点で検討し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しが行われている。本人の状態の変化や家族からの要望などがある場合は、その都度見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで在宅から受診しているかかりつけの病院に継続して通院できるよう、家族と相談の上支援している。通院時や状態の変化時など連絡を取り、的確な対応ができるように努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、家族の意志確認書を作成し、説明と同意を得ている。今後は、ターミナルや重度化に備え、医療連携体制加算や医師との連携について前向きに検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳が損なわれない言動を常に心掛けている。又、個人情報の入っている書類や記録は、ロッカーに保管し施錠管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、利用者のその場、その時のペースに合わせ、買い物や散歩など一人ひとりの思いに配慮した柔軟な支援に努めている。利用者の状況で食事介助の必要性や不穏時の対応などを見極めて臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は「週間献立カレンダー」による食事と月2～3回の希望メニューとがある。職員も同じテーブルで食事し、和やかに声掛けや見守り支援を行い、利用者に会話を楽しんでもらいながらの食事風景となっている。会話の内容は職員がサンドマメ野菜の名前の由来を利用者に尋ねたり、夕飯の「フキ」の皮むきを依頼したりと和やかな雰囲気作りと会話の引き出しに懸命に努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴としているが、週2回にこだわりはなく利用者の今迄の習慣に合わせ、時間帯や回数は本人の希望を踏まえた支援となっている。柚子湯、菖蒲湯などの趣向を凝らし、生活感や季節感を取り入れている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりの力が発揮できるよう、得意分野や利用者の能力に応じた仕事をお願いしている。洗濯物たたみや食事の準備、後片付けなどは利用者が自ら率先して協力している。又、日々楽しく張り合いを持って過ごせるようにと、多彩な行事やボランティアによる余興、慰問などの受け入れ等も実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の体調、希望や天候などにより、外気浴、散歩、買い物、ドライブ、地域のイベント見学や四季折々に花見や紅葉見物などと屋内に閉じこもらないよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間の防犯目的以外は鍵は掛けない。玄関の出入りはチャイムで知らせる工夫はしてあるが、職員はそれに頼りきりになることなく、外に出たい様子が伺えた時は外出に付き添うなど自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回(昨年実績は6月、12月)の内1回は消防署の立会い指導の下に実施している。実施記録には避難所要時間も記録しており取り組みの真剣さがうかがえる。地域住民にはまだ参加を呼び掛けをしていないので今後は運営推進会議などで避難訓練への協力、連携の要請を行なってゆくとのことであった。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は朝、昼、夕毎にカロリー計算がしてあり、摂取量は「生活チェック表」に毎日記録し十分な摂取量の確保に努めている。水分摂取量も同様の管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の廊下、トイレ、リビングダイニングは広くゆったりしている。日中過ごすリビングダイニングの窓も大きく室内は明るい雰囲気となっている。窓からは、庭木の四季の変化の様子が観察でき季節を感じる事が出来る。壁には季節の生花や行事にちなんだ手作りの装飾などが掛けられ、居心地が良くなるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの物や、馴染みの物で部屋を飾りその人らしい環境作りをして居心地良く生活できる支援がなされている。どの居室も清掃、整理整頓が行き届いており清潔感が感じられた。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム今泉

記入担当者名 石田 直樹

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。